

	<h1>論理国語</h1>	
--	---------------	--

教科	科目名	単位数	学年・コース	教科書名	副教材
国語	論理国語	3	3年 A進学 G一貫	論理国語 (筑摩書房)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『ちくま文学購読 上級編』(筑摩書房)</li> <li>・『入試漢字マスター1800+四訂版』(河合出版) ※三年間継続使用</li> </ul>

学習目標	言語に関する知識を深めつつ、文章の構成や対比構造、論理の展開や表現に注目し、主題や要旨を的確に捉える。さらに、背景にある社会的・歴史的な影響等をさまざまな角度から読み取り、自らの考えを深める。
学習の進め方	教科書・副教材の文章を丁寧に読み解き、読解力を深める。入試問題演習を適宜行う。
評価対象・方法	授業の取り組み、定期テスト、小テスト、提出物、言語活動等を評価対象とし、総合的に評価する。
受講に向けての心構えと準備	大学入試を念頭に置き、実力の向上を目指す。一・二年次に学習した読解の基礎を土台にして、知識と読解力、表現力を確かなものにしていく。積極的な参加と主体的な学習を期待している。

	学習事項	学習内容	備考
一 学 期	<b>【論理】</b> (①貧困②飢餓⑤ゾンダー) <b>「虚ろなまなざし」(岡真理)</b>  <b>【論理】</b> (⑩平和) <b>「戦争と平和についての考察」(中井久夫)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悲惨な出来事の当事者や被害者が語り得ないものの声に、私たちが同情し、代弁することで見えなくなるものとは何か。また「主体」とは何なのか、について考察する。</li> <li>・人類はなぜ戦争をするのか、なぜ平和は永続しないのか。人はいつ、どのように戦争に直面するのか。冷静な観察と、戦争と平和に関する筆者の認識を理解する。</li> </ul>	第1回スタポ(4月) <b>漢字テスト</b> <b>(3回実施)</b>
	中間試験		
	<b>【文学】</b> (日本文化、歴史、文芸批評、随想) <b>「無常ということ」(小林秀雄)</b>  <b>【文学】</b> (日本文化、歴史、文芸批評、随想) <b>「日本文化私観」(坂口安吾)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和期に活躍した二人の文芸批評家、小林秀雄と坂口安吾のある意味、対極的な日本文化に関する有名なエッセイを深く読み味わうことで、グローバル時代における「日本文化」の在り方について考察を深める。</li> </ul>	第1回進研模試(6月) <b>漢字テスト</b> <b>(3回実施)</b>
期末試験			
二 学 期	<b>【文学・プリント】</b> (小説) <b>「檸檬(れもん)」(梶井基次郎)</b>  <b>「大学入試問題演習・言語活動・X」</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「得体の知れない憂鬱な心情や、ふと抱いたいたずらな感情を、色彩豊かな事物や心象と共に詩的に描いたと評される梶井基次郎の代表作「檸檬」を読み、鑑賞する。</li> <li>・大学入試の過去問や類題の演習、言語活動等を行う。</li> </ul>	
	中間試験		
	<b>【文学】</b> (随想、芸術論、美学、比較文化論) <b>「陰翳礼讃」(谷崎潤一郎)</b>  <b>【X】</b> (X) <b>「作品X」</b>  <b>「大学入試問題演習・言語活動」</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ電灯がなかった時代の燭台と漆器との調和を通じて、日本の美の感覚、日本人の芸術的感性にふれつつ、西洋文化との比較を通して、陰翳のもつ意味について考察する。</li> <li>・X</li> <li>・大学入試の過去問や類題の演習、言語活動等を行う。</li> </ul>	
	期末試験		